

平成31年度 学校経営計画書

学校名	倉敷市立葦高小学校
校長氏名	吉仲 潤

○ 本校のミッション（使命、存在意義）

予測困難な社会の変化に対しても、主体的に考え判断し、協働して粘り強く行動し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となることができるように、「生きる力」をつける。

学校教育目標を「愛と信頼による共感的理解を基盤として、心豊かで心身ともにたくましい児童の育成を目指す」とし、学校が、保護者・地域と一体となって教育活動を推進する。

○ ミッションの追求を通じて実現しようとする本校の学校経営ビジョン（将来像、目指す姿）

<目指す子ども像>	「葦高っ子でよかった。」
・あせを流して働く子	「葦高小学校に通わせてよかった。」
・しんせつで優しい子	と思われる学校
・たくましく強い子	「葦高小学校の職員でよかった。」
・かんがえて工夫する子	と思える学校

○ 当該年度の具体的な学校経営目標・計画

目標を共有する教職員集団による協働、保護者・地域との協働により、次の4つが揃う学校を目指す。

1 子どもの笑顔

<人を大切にし合う集団>

- ・子どもと子ども、子どもと教師が心繋がる学級集団づくり、保護者との深い連携
- ・人権感覚を磨き、児童の主体的・意欲的な課題解決能力の育成を目指す教職員集団
- ・人の痛みを感じる心や、周りの人の想いを想像できる優しい心の育成
- ・縦割り班活動の充実 ・年2回のなかよし週間と全校集会
- ・挨拶強調週間（各学期1回）

<生徒指導>

- ・ルールとマナーの徹底と習慣化（挨拶、返事、持ち物、遊び方）
- ・自己指導能力の育成（共感的人間関係 自己決定 自己肯定感）
- ・職員終礼や職員会議等での定期的な情報交換の充実
- ・不登校対策の強化 ・確実ないじめの早期発見と早期対応 ・年2回の教育相談週間の実施

<特別支援教育>

- ・一人ひとりの深い児童理解に基づいた支援体制
- ・UDの視点を生かした授業の継続 ・授業中の個別支援の工夫 ・スタディ教室の活用
- ・校内教育支援体制の充実 ・保護者との連携強化
- ・児童の実態把握と指導方針の共有化 ・個別の指導計画や教育支援計画の作成

2 分かる授業・楽しい授業・できる授業

- ・共に学ぶことの楽しさを実感する授業
- ・UDの視点（焦点化、視覚化、共有化）を生かした深い学びのある授業づくり
- ・学習規律、話型、ノート指導の確立
- ・少人数指導の工夫 ・読書習慣の広がりや深まり
- ・学習習慣の改善と家庭学習の深化
- ・体力・運動能力の向上

3 安全で よく整美された環境

- ・定期的な安全点検の確実な実施と早期対応
- ・ルールとマナーの徹底と習慣化（履き物・雑巾・机椅子の整頓、掃除）
- ・教師と児童が共に創る、心と耳に優しい言語環境
- ・心を豊かにする環境整備（季節感ある掲示物、季節の花、おもてなしの対応）
- ・役割、分担、手順を明確にし、協力し合って最後までやりきる「汗を流して働く」教職員集団。（掃除、委員会活動、係活動、当番活動）

4 学校の応援団

- ・保護者や地域の方の学校支援ボランティア活動（見守り活動、読み聞かせ、学習支援等）の拡充
- ・学校だよりやホームページを活用し、学校を支えてくださる方々の活動や思いと子どもの様子等を紹介することによって愛校心や郷土愛を醸成するとともに地域に大切にされる開かれた学校を目指す。